

荒さんのひとりごと

ある愛のかたち

令和4年(2022) 6月1日

荒川 浩

令和4年(2022) 5月15日、フルトン男声合唱団は、混声合唱団・都城クリスタルコール創立67周年記念演奏会に賛助出演しました。当日はアンコールも含め9曲も歌いまして、フルトンにとって記念すべき日になりました。

フルトンの歌った、立原道造作詞・木下牧子作曲「夢みたものは」の一節に「ねがったものはひとつの愛」「夢みたものはひとつの愛」というくだりがあります。この愛のかたちについて、すこし考えてみました。

あるフルトンの練習日、指揮者の中園先生が、都城クリスタルコールの古いメンバーについて、ちよつとおっしゃった言葉に、私は「もしかして…」との想いを抱きました。

思い起こせば、今から65年前のことですが、一学年先輩にバレーボールに秀でて、加えて素晴らしい歌唱力のある人がいました。ある時、そのテノールの歌声を聴く機会がありましたが、菊田一夫作詞・古関裕而作曲、伊藤久男の「恋を呼ぶ歌」は、歳月の経った今でも心から消えることはありません。まさか、その当人がクリスタルのメンバーに現在いらっしゃるのでは…と思ったのです。

4月6日、記念演奏会に備えたクリスタルとフルトンの合同練習が、宮崎県立芸術劇場(メディアキツ県民文化センター)で行われ、その場で「その人」がまちがいなく「小玉正紹先生」と確認できました。

私の知る小玉先生は、昭和13年(1938)生まれ、都城市在住。元中学校の体育教師で、元バレーボール監督。終戦に伴い、中国から過酷な引き揚げ体験をされる。定年退職のころ、網膜色素変性症を発症し視力を失いました。以後、音楽に取り組み、現在は、クリスタルコールに所属しながら、各種施設でボランティアコンサートを行っています。

いただいた名刺には「歌とトークとボランティア」とあります。

自ら多くの歌を作詞・作曲し、奥様の書かれた詩に曲を付けるいっぽう、郷土都城を称える歌にも精魂を込められています。その音楽愛、郷土愛、それに加えて奥様との二人三脚による夫婦愛。

「今のところ、お互いに合格点の人生?!」とおっしゃるお二人。この三つの愛に「夢とねがい」が凝縮されていることを実感します。









【管理人よりひとこと】

フルトン男声合唱団は、昭和42年(1967)11月創立。NHK宮崎放送局の番組で大古殿宗三氏(稲門グリー・故人)が、男声合唱団設立を呼びかけ、歌の好きな仲間10数名からスタートしました。

平成22年(2010)、第1回全日本男声合唱フェスティバルが宮崎で開かれた際、まだ個人参加が認められていなかったため、私は急きょフルトンのメンバーに加えていただき出演することができました。合同演奏曲は、グノーの「ミサ曲第2番」、指揮は荒谷俊二さんでした。

【 荒川 滋 エッセイ 】

↓ Click here!

- | | | |
|---|---------------------------------|-------------|
|  | (E-132) 荒さんのコロナ禍の「ひとりごと」 | 2022年4月5日 |
|  | (E-119) 北越戊辰戦争戦没者所感 | 2018年12月28日 |
|  | (E-106) 「すみだ第九」プラスアルファ | 2016年3月19日 |
|  | (E-103) 戦後70年の節目に～東京ぶらりひとり歩き | 2015年11月14日 |
|  | (音楽こぼればなし 2014) 国技館すみだ5000人第九 | 2014年3月23日 |
|  | (E-92) 20年ぶりの沖縄 | 2013年4月2日 |
|  | (E-72) 『荒さんのぶらりある記-その弐』万里の長城へ登る | 2008年11月6日 |
|  | (M-72) 心のオアシスを求めて『荒さんのぶらりある記』 | 2006年4月19日 |

[Back](#)

「なんやか」TOPへ戻る

[Home](#)

「ホームページ」表紙へ戻る